

「星という名の希望の光」

私は幼い頃から宇宙について興味を持っていました。なぜ、星はきらきら光るのか。なぜ、体は動いていないのに地球は動いているのか。なので、私はいつもそんな疑問に自分で答えを見つけようとしてきました。小学校三年生の時、宇宙兄弟というマンガを見て宇宙兄弟展へ行きました。

私が宇宙が好きならばと、私の祖母が JAXA へ社会見学に行かないかと中学生の時、私たち家族でつくばまで旅行につれて行ってもらいました。JAXA が私の病気の治療に関連するタンパク質合成の研究を行っていることを知り感動しました。

高校に進学し、理系を専攻して物理を学びました。私は物理にこんなに興味があるとは自分

でも思ってもいませんでした。幼い頃から自分で作ったおもちゃやロケットが物理の法則とよく似ていたからです。その他、化学や生物と私にとって授業特に実験には大変興味がありました。学ぶことが好きでそして、学ぶことに生きがいを感じています。

高校生の時、宇宙と物理、生物と医療その当時私の病気の研究をしてくださっている方々が、私の生まれる前からいらした事、そして宇宙と医療という異なって見える分野の研究が連携しているということにも驚きました。それがきっかけで大学で宇宙についての専門的なことを学びたいとさらに強く思うようになりました。宇宙物理学を学び宇宙の進化や謎の多いブラックホールについての研究をしたいと考えています。宇宙という未知の世界には人類の病気を治すタンパク質があると私は思っています。だから、生体物理学についても学び研究したい

とっています。アメリカ留学を経験し、多様な国々の様々な人達と出会い世界中の人達と交流し、障がい者と健常者という目に見えない心の交流を深めていけるよう視野を広げたいと考えています。

大学を卒業した後は、JAXXA や宇宙を観測している民間企業や医療特に新薬の開発に関連している民間企業などの仕事に就きたいと考えています。世界中を悲しみや苦しみで脅かされた新型コロナウイルス等の未知のウイルスから人類を守り苦しんでいる様々な人々を助けられるような倫理観を持った科学者になろうと強く決心しています。病気を理由に自分の可能性を無駄にすることなく様々なことを詳しく学び幅広い知識や考えを持ち社会貢献できる人材になりたいと思います。

私は20才まで生きれるかどうかわかりませんでした。しかし今鳴門に私は生きさせてもらえ

ています。それは、家族そして周りの方々の支援であると思っています。これからも、自分一人では生きていけないから常に感謝の気持ちを持ちお願い出来る支援はどうか力をかしていただければと思っています。様々な壁に当たることがあると思いますが何事にも最後までめげることなく全うする性格を活かし、簡単に諦めずに遠回りしても生き生きと生活できるよう将来の一步を踏み出したいと思っています。